

a la carte.

あらかると

2021.7

414



岳温泉と湯守文化

岳温泉と湯守文化

安達太良山の麓に位置する岳温泉。全国的にみてもその歴史は古く、1215年という長い間人々に親しまれてきました。その長い歴史の中で山津波、戊辰戦争、火災と幾度も壊滅的な被害を受けるなか、先人たちは困難に立ち向かい、復興を成し遂げてきました。



▲新緑の岳温泉

湯守の役割

岳温泉の源泉地は安達太良山の8合目の標高1,450mの場所にあり、そこから「引き湯」という手法で温泉を源泉地から温泉街まで湯管を使って運んでいます。復興のたびに温泉街は源泉地から離れ移転しており、現在は源泉地から温泉街までは8キロ離れています。遠く離れた源泉を管理するのは容易なことではありません。温泉を温泉地に安定供給するため、炎天下の夏でも雪深い冬でも安達太良山へ登り源泉を守る人たちがいます。湯守と呼ばれる人たちです。



▲湯花流しの作業 夏は暑さとの戦い



▲湯花流しの後は乳白色のミルクー風呂に

温泉街に温泉を安定して供給するためにはなくてはならないのが、湯守の仕事「湯花流し」です。岳温泉の源泉は硫黄をはじめとする温泉成分が濃く、空気に触れるとすぐに温泉が流れる樹脂製の湯管内に湯花が付着してしまいます。放っておくと湯管が詰まり、温泉街に湯が届かなくなってしまうため、週に1度は必ず湯管内の湯花を落とす必要があり、この作業を湯花流しと呼びます。片道1時間30分～2時間、積雪時には6時間以上かけて源泉へ赴き、東日本大震災で被害を受けた源泉の復旧作業とともに湯花流しをおこないます。



▲積雪の中での作業は過酷

湯守の現状

湯守は長い間、人から人へと受け継がれ継承されてきました。湯守は単に温泉を守るだけでなく、その文化を継承することで1215年前から現在まで歴史を紡ぎ、時には命も守りながら、人と人、過去と現在を繋いで地域の絆を深めてきました。しかしながら現在においては、岳温泉の住人でさえ、湯守文化と湯守の活動を知る人は少なくなり、次世代へ残せる資料もありません。さらには昭和初期から湯守文化を守り続けてきた方々の高齢化が進み、湯守の担い手も減少しているのが現状です。

未来へ湯守文化を繋ぐ

湯守文化を守り、その技術の継承と保存のため、クラウドファンディングで支援を募り、湯守文化を国内外へ発信するためのショートムービーを作成しました。岳温泉の温泉を支え続けている湯守文化の発信と継承が湯守とともに歩み続けている岳温泉を未来に繋ぐ大切な架け橋になると強く思っています。ショートムービーは7月下旬に岳温泉施設内やWebで公開予定です。詳細は岳温泉公式HPにてお知らせします。



▲撮影の様子

岳温泉観光協会

〒964-0074 福島県二本松市岳温泉1-16
TEL : 0243-24-2310
H P : <https://www.dakeonsen.or.jp/>

